

## 第47回日本・ASEAN経営者会議 (AJBM)

完全オンラインによりAJBMを開催  
コロナとの共生と気候変動問題への対応を  
日本とASEANの視点から議論

3月10日、フィリピン・日本経済協力委員会 (PHILJEC) と経済同友会との共催により第47回日本・ASEAN経営者会議 (AJBM) が完全オンラインにて開催された。今回は、「コロナ禍を越えて: デジタル化で未来を描く日本とASEANの共創」が全体テーマ。コロナとの共生、気候変動対策、デジタルおよびスタートアップ領域での日本・ASEANの連携に焦点を当て、日本とASEAN各国の企業経営者、およそ250人が意見交換を行った。日本からは、櫻田謙悟代表幹事、林信秀アジアPT委員長、平子裕志アジアPT委員長代理をはじめ会員など約80人が出席した。



## 全体概要

第47回 AJBMは、第45回 AJBMで設定した「デジタル、スタートアップ領域での日・ASEAN連携」の切り口を踏まえ、その上で、コロナ危機と気候変動問題に対して、日本とASEANの企業がどのように立ち向かい、新しい可能性を見いだそうとしているかについての議論を行うことを目的に、プログラムを構成した。具体的には、(1) コロナとの共生、(2) 気候変動への対応、(3) スタートアップとイノベーションの促進、を論点として、三つの会議を設定し、日本とASEANの双方がより豊かに成長していくための課題抽出とその解決に向けた連携のあり方につ

いて議論を行った。

## 開会式

最初に、ジェラルド・サンビクトレス議長、そして櫻田謙悟代表幹事が開会挨拶。サンビクトレス議長は第47回 AJBMをオンラインで開催できることを歓迎し、新型コロナウイルス感染症対策、気候変動、スタートアップとイノベーションについて議論できることへの期待を表明した。櫻田代表幹事は、途切れることなく今年も AJBMが開催され、ASEANと日本の経営者が現在世界の経済社会を揺るがしている二つの「C」COVID-19 (新型コロナウイルス) と Climate Change (気候変動) について議論することは非常に意義深いこと

だと述べ、企業経営者は常に新しい価値の創造に挑戦しなければならず、ASEANと日本のイノベーションが世界の社会的課題の解決に貢献できることを願うと強調した。続く越川和彦駐フィリピン日本大使の来賓挨拶では、2018年のCPTPP発効や2022年のRCEP発効などのASEANを巡る昨今の経済連携環境の変化を踏まえ、日本とASEANの将来的な経済協力への期待について述べた。

会議の基調講演をフィリピンのラモン・ロベス貿易産業大臣よりいただいた。ロベス貿易産業大臣は、ASEANの現状とこれまでの発展を振り返りながら、コロナ禍収束後の新たな成長機会と日本とASEANの新たなパートナー



櫻田謙悟代表幹事



越川和彦駐フィリピン日本大使



ラモン・ロベス フィリピン貿易産業大臣

シップについての期待を示した。

最後に、林信秀共同議長より、会議テーマとプログラムの背景にある課題認識を説明。コロナ禍を乗り越え、日本とASEANがインド太平洋地域の中核の経済圏として、より豊かに成長していくための課題とそれに対応する連携のあり方について可能性を探っていききたいと述べた。

## 全体会議 1

「ウィズコロナの時代に適した社会経済システムの構築～パンデミックからの回復と新しい社会への歩み～」がテーマ。

島村琢哉アジアPT副委員長 (AGC会長) は、VUCAの時代では将来を推測することが困難であり、加えてコロナのパンデミックや国際紛争などといった世界的危機を前に、さらに難しい時代に突入していると語った。平時においても企業が創業から30年生き残ることが難しいとされている。加えてコロナ禍はあらゆる企業に影響を及ぼしている。そうした状況下で企業が社会的価値を提供し続けるためには、三つの条件 (1) 常に長期的視点を持つ、(2) 聖域なく変革に取り組む、(3) 創業精神を忘れないことが必要だとした。そして「両利きの経営」として、事業環境の変化への対応 (事業ポートフォリオの見直し、新規事業の迅速な組織化、M & Aの推進) と組織文化の見直し、そして人材育成が重要であり、その上で、経営者は、物事の本質を見抜く力が持つことが不可欠であると強調した。

## 全体会議 2

全体会議 2 では「気候変動への対応～再生可能エネルギーとグリーンビジネス～」をテーマに、フィリピン、シンガポール、日本からの事例紹介と今後の展望について議論した。

木南陽介レノバ代表取締役社長CEO は、自身が環境問題に関心を抱いた経緯と同社の日本やアジアにおける太陽



林信秀共同議長



平子裕志共同議長

光、風力、バイオマス、地熱、水力など複数の再エネ電源の開発の取り組みについて紹介した。同社は「グリーンかつ持続可能なエネルギーシステムをつくり、重要な社会課題を解決する」というミッションと「アジアの再生可能エネルギーのリーダーになる」とするビジョンを掲げ、アジア諸地域においてパートナーシップを組んで事業を展開している。一種類の電源に絞らず、幅広い電源を手掛ける理由としては、ベトナムにおける風力発電やフィリピンにおける水力発電の事例を示し、地域によってさまざまな再生可能エネルギーがあることを挙げた。世界の成長センターであるアジアにおいて、成長と同時に環境負荷を低減することに貢献していきたいと述べた。

## 全体会議 3

「デジタル化でニューノーマルへの道を拓く～ASEANと日本の共創～」をテーマに、日本、ASEAN双方のスタートアップ企業が事例紹介を行い、本間真彦アジアPT副委員長 (インキュベイトファンド代表パートナー) がモデレーターを務めた。日本からは、医療・ヘルスケアの分野でクラウド技術などを利用したコミュニケーションプラットフォームを提供する「アルム」が登壇した。

## 閉会式

サンビクトレス議長、林共同議長、平子共同議長の総括と閉会の挨拶で会議が閉幕した。

### 第47回日本・ASEAN経営者会議 (AJBM) プログラム概要 2022年3月10日 (役職は開催時)

#### ■開会式

開会挨拶：ジェラルド・サンビクトレス 第47回AJBM議長  
櫻田 謙悟 経済同友会 代表幹事

来賓挨拶：越川 和彦 駐フィリピン日本大使  
基調講演：ラモン・ロペス フィリピン貿易産業大臣  
導入：林 信秀 第47回AJBM 共同議長

■全体会議 1：ウィズコロナの時代に適した社会経済システムの構築  
～パンデミックからの回復と新しい社会への歩み～  
島村 琢哉 AGC 取締役会長

■全体会議 2：気候変動への対応～再生可能エネルギーとグリーンビジネス～  
木南 陽介 レノバ 代表取締役社長CEO

■全体会議 3：デジタル化でニューノーマルへの道を拓く～ASEANと日本の共創～  
モデレーター：本間 真彦 インキュベイトファンド 代表パートナー  
坂野 哲平 アルム 代表取締役社長/CEO

#### ■閉会式

閉会挨拶：ジェラルド・サンビクトレス 第47回AJBM議長  
林 信秀 第47回AJBM共同議長  
平子 裕志 第47回AJBM共同議長